大銀杏

根　城

南部師行公

２０１８年度　第５号

八戸市立根城中学校　平成30年8月28日発行

生徒会テーマを読み解く

生徒会役員を中心として、１学期はさまざまな行事が実施されました。また、生活改善に向けての呼びかけも行われました。２学期も体育祭や文化祭をはじめとして大きな行事が予定されています。より一層の活躍と全校での協力を期待しています。

さて、今年度の生徒会のテーマを記した横断幕が体育館に掲げられています。

ともに　～学び×笑い×感動～

「ともに」と平仮名表記になっています。漢字を当てるとしたら「共に」でしょうか。学級が、学年が、そして全校が一丸となって、学び合い、笑い合い、感動を共有しようという思いが感じられます。また、「×」は、「バツ」ではなく、計算で使う「かける」でしょう。だから、「学び」「笑い」「感動」がただ並んでいるのではなく、それぞれが結び付いて更に高まっていこうという願いも感じられます。

このようなことを考えながら横断幕を見ていたら、別のことも浮かんできました。「ともに」を「友に」にしたらどうでしょう。

学習に限らず幅広い面で友達のすばらしい点を自分に取り入れようと努力し、
悲しみや辛さの中にあっても友達の言葉や行動によって笑いを取り戻す勇気をもらい、
事柄の大小にかかわらず友達の見習うべき点を発見したら心からの拍手を送ろう。

このように解釈することもできます。これからの学校生活の中で生徒会テーマの実現に向けて、一人一人が着実に取り組むよう願っています。

善行少女

前号では町内会活動に取り組む立花璃美さん（３年４組）の作文を紹介しました。夏休み中に地域の方から本校生徒の善行を褒め讃える電話が２件ありました。概要を紹介します。

○田村優香さん（３年４組）

道端で倒れた男性に声をかけるともに、近くの事業所に連絡し助けを求めた。すぐに大人の連係による応急手当と救急車要請がなされた。その判断力がすばらしい。

○狄守響子さん（３年３組）

歩道に投げ捨てられていた空き袋を拾い、それをゴミ箱がある場所まで持っていき、きちんと処理した。そのさりげない行為がとても清々しい。

※ 頭ではわかっていても、実行に移すことは難しいものです。２人の行動力に拍手を送ります。

学校評価アンケート（１学期）の結果のお知らせ

保護者の皆様のご協力に感謝いたします。アンケート１０項目についての結果は以下のとおりです。

＜生徒、保護者、教職員とも肯定的な回答（「よい」「ややよい」）が８割を超えた項目＞

☆意欲的な授業

学習の目標、方法、まとめ等を明確に示しながら、「主体的・対話的で深い学び」に結び付くよう、更に校内研修を進めます。

☆積極的な学級活動

それぞれに任せられた係活動をはじめとして、生徒個々の特性が発揮され、学級全体の向上につながっていくよう、更に計画的かつ意図的な学級活動を進めます。

☆安心できる学校生活

誰もがもっている「学校で安心して過ごせる権利」を保障するとともに、日常のコミュニケーションや観察を通して、生徒の悩み等の早期発見・早期解決に努めます。

☆生徒の努力を認める教職員

生徒が努力しようという意欲をもてるような目標設定と具体的なアドバイスに努めるとともに、自分の変化を本人が自覚できるよう、機に応じて伝えていきます。

＜生徒、保護者、教職員のいずれかが肯定的な回答が８割に達しなかった項目＞

★明確な目標と計画的な実行

保護者の回答が 59 %。家庭における様子を見れば、まだまだ足りないととらえている方が多いように思われます。学習面でも行動面でも、生徒自らが「何をどのようにすればいいのか」をしっかりと意識できるよう、日常的な指導の充実に努めます。

★学習面でのサポート

保護者の回答が 73 %。日常の授業における個別支援、定期考査に向けた補充学習、ペアやグループ学習等、生徒の意欲と学力向上につながる取り組みを進めます。

★家庭学習習慣の確立

生徒 78 %、保護者 55 %、教職員 63 %。宿題を例に挙げれば、自力で取り組むことにより「今日の授業が生きる宿題（復習）」または「明日の授業に生きる宿題（予習）」になるよう、その内容や分量等について十分に配慮します。家庭においては、決まった時間帯に学習するリズムづくりをお願いします。

★将来の職業についての学習

保護者 65 %、教職員 67 %。２年生の職場体験だけではなく、進路学習や地域の方々からの職業講話等を通して、今後の自分の生き方について考える場を確保していきます。

★相談できる環境づくり

教職員の回答が 75 %。日常的な観察や情報共有により、小さな変化やサインを見落とすことなく早期に対処するともに、生徒にとって相談しやすい環境づくりを進めます。また、ＳＣ（スクールカウンセラー）やＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）の活用も進めます。保護者の皆様も気軽にご相談ください。

★学校行事等における生徒の活躍の場の確保

生徒と保護者は高い数値になっていますが、教職員の回答は 58 %。これは活躍を否定しているのではなく、「生徒は今よりももっと実力を発揮できる」という期待の表れだと感じています。更に生徒の意欲を高める指導により活躍の場を増やせるよう努めます。